



芳澤勝弘 [著]
うろん
一休、胡乱を生きる
『一休和尚年譜』を読む

定価: 11,000円 (税込)

2025年10月刊行予定

▶ A5判 上製・440頁
ISBN978-4-7842-2120-2

よしざわかつひろ…1945年生まれ。同志社大学卒業。
財団法人禅文化研究所主幹を経て、2014年度まで花園
大学国際禅学研究所教授。現在、同研究所顧問。専攻
は禅学、日本文化史。

十五世紀、一休宗純が生きた時代は、足利義満の治世に始まり、嘉吉の乱、応仁・文明の乱へと続く激動期にあたる。本書は、一休研究の基礎史料である『一休和尚年譜』の詳細な訳注に加え、『狂雲集』『自戒集』、墨跡や同時代の古記録を駆使し、一休の生涯を時代の中に位置づける。京の都で万単位の僧侶が武装して主張を展開し、放火や殺人が横行する異常な社会の中に置くと、一休の破戒と風狂は新たな意味を持つ。禅宗研究のみならず、室町時代史としても意義深い一冊。

◆内容目次◆

はじめに
関係人物生没年一覧

『一休和尚年譜』訳注
明德五年(一三九四)～文明十三年(一四八一)

〔補説〕
六歳までどこで生活していたのか
室町時代における秉弘の実際
若き一休の悩みは何だったのか
真珠庵建立について
寛正の大飢饉
慈楊塔命名の因由

〔付録〕
「祖心紹越置文」(酬恩庵藏)
祖心紹越「一休宗純遷化記録」(「真珠庵文書」一、一三号)
一休の遺偈・辞世
東陽英朝『少林無孔笛』所収の「一休和尚入牌祖堂」

解説

索引

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
<https://www.shibunkaku.co.jp> E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	一休、胡乱を生きる	定価10,000円(税抜)	ISBN978-4-7842-2120-2	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	代引 (書籍代+消費税+送料900円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

東陽英朝 少林無孔笛訳注[全3巻]

芳澤勝弘編著

妙心寺四派の一つ、聖澤派の開祖・東陽英朝禅師(1428-1504)の語録『少林無孔笛』六巻を現代語訳し、詳細な注を付す。晦渋な修辭が続く、難解で知られた「文字禅」の代表である語録を、禅学の大家が500年の歳時を超えて、現代に甦らせる全3巻。

■全巻構成

- 一(巻之一・巻之二 入寺法語)
二(巻之三・巻之四 仏事)
三(巻之五 偈頌、巻之六 像賛・道号)【品切】

- (一) ▶A5判・620頁／本体 13,000円(税別) ISBN978-4-7842-1894-3
(二) ▶A5判・636頁／本体 13,000円(税別) ISBN978-4-7842-1974-2

新纂校訂 即非全集 [全4巻]

平久保章編

木菴とともに万福寺の首座となった明僧の即非如一は隠元の徳、木菴の道、即非の禅とたたえられた高僧。本全集には語録・詩偈集を収めた『即非禅師全録』ほか二点を影印で刊行。異本との校訂は頭注で示し、詳細な索引を併載。

- ▶A5判・総1,632頁／本体 67,000円(税別) ISBN4-7842-0810-0

雪叟紹立 雪叟詩集訓注

芳澤勝弘編著

妙心寺派太平寺に架蔵される、雪叟紹立およびその周辺の禅僧の詩文集『雪叟詩集』(写本)の翻刻・訓読に加え、語句・表現についての注、索引を付す。室町時代後期から安土桃山時代にわたる、主として妙心寺派の僧による詩、法語、古則に対する著語、文、書簡などであり、写本の筆跡は一筆ではなく、数人の手で書かれたものである。

- ▶A5判・876頁／本体 15,000円(税別) ISBN978-4-7842-1801-1

日本中世の地域社会と仏教

湯之上隆著

静岡県を中心とした地域の寺社文書の詳細紹介、紀行文から見る地域社会など、「宗教」と「地域社会」をキーワードとして古代から近代までの社会を概観する論集。写経や法会、開板事業、偽文書など様々な事象を通して、個人や集団の宗教行為がいかなる社会性を持ったのか、中世の地域社会における、仏教と社会との関係性を明らかにする。

- ▶A5判・384頁／本体 8,000円(税別) ISBN978-4-7842-1773-1

対外関係と文化交流 [オンデマンド版]

田中健夫著

中世日本の東アジアへの対応、足利義満の外交の特質、勘合制度の実態と性格、琉球王国の国際的位置、島津氏と琉球との関係、さらに近代に及ぶ対馬の藩政と朝鮮修好との関係など、中世から近世に至る日本の東アジアを中心とした対外関係と文化交流に光をあてる。史料として16世紀の対馬宗氏の二史料を収める。(2版1991年)

- ▶A5判・690頁／本体 13,800円(税別) ISBN978-4-7842-7009-5

※増補・改訂 南北朝期公武関係史の研究

森茂暁著

南北朝期の公家政局の構造、および朝廷と幕府との関係を、豊富な史料をあげて実証的に読み解き、その後の中世政治史の発展を決定づけた、1984年文献出版刊行の名著を増補・改訂して復刊。増補にあたっては、32頁に及ぶ新補注を付し、旧版刊行後に見いだされた基礎データ等を収録。

- ▶A5判・612頁／本体 9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1416-7

角倉一族とその時代

森洋久編

了以・素庵による朱印船貿易、高瀬川・保津川・富士川の開削——、近世角倉一族は大商人・事業家として広く知られているが、現代の角倉イメージにとらわれず、文化・技術の総体の中で近世の吉田・角倉一族の業績を俯瞰的に検討。多彩な分野の研究者のみならず、近世の技術の継承者たる職人・技術者も含む26名の論考を収録。

- ▶A5判・628頁／本体 8,800円(税別) ISBN978-4-7842-1797-7

江月宗玩 欠伸稿訳注 乾・画賛篇(坤 品切)

芳澤勝弘編著

江月宗玩(1574-1643)の語録『欠伸稿』(大徳寺塔頭 龍光院蔵自筆本)の画賛を翻刻。

- ▶乾 A5判・640頁／本体 9,500円(税別) ISBN978-4-7842-1462-4
▶画賛篇 A5判・500頁／本体 8,000円(税別) ISBN978-4-7842-1939-1

蘭溪和尚語録 蘭溪道隆禅師全集1

佐藤秀孝・館隆志共編

鎌倉中期の渡来僧・蘭溪道隆(1213-1278)は、鎌倉禅宗の基礎を築いた高僧で、大覚派の祖・建長寺の開山。その語録の原文影印と翻刻に、訓註・補注・解題を付して全貌を明かす。建長寺所蔵の覆宋五山版『蘭溪和尚語録』を底本に、文政本『大覚禅師語録』と大正新脩大蔵経本『大覚禅師語録』の当該箇所より文字の対校をなした。

- ▶B5判・662頁／本体 15,000円(税別) ISBN978-4-7842-1777-9

新纂校訂 木菴全集 [全8巻]

平久保章編

伽藍の整備と禅僧としての学徳で黄檗宗禅基を確立した第二世木菴禅師の語録8種(木菴禅師語録・木菴禅師東来語録・東来集・黄檗木菴禅師語録・木菴和尚瑞聖寺語録・黄檗木菴語録など)のほか平譜・寿章などを加えて原本を収録。頭注に付し最終巻には冠首索引・准冠首索引・総索引を付載。

- ▶A5判・総4,100頁／本体 145,000円(税別) ISBN4-7842-0738-4

中世禅宗の儒学学習と科学知識

川本慎自著

[オンデマンド版]

中世の禅僧たちがもっていた卓越した経営手腕や知識・技術は何に由来するのか?経済活動と学問、中世禅宗の二つの側面を架橋することで、禅宗寺院の果たした役割の全体を明らかにするとともに、近世につながる科学知識の萌芽についても見通す。(初版2021年)。

- ▶A5判・320頁／本体 7,100円(税別) ISBN978-4-7842-7051-4

日本中世の政治権力と仏教 [オンデマンド版]

湯之上隆著

当該期の政治権力と仏教を中心とする宗教との関係—とりわけ天皇・鎌倉幕府・室町幕府と仏教の実態、思想・文芸の担い手であった僧侶・寺院の宗教文化活動について究明。政治・経済の諸分野を考慮し、宗派・教学の枠を越え、従来の視点では見過ごされてきた事実を解明。(初版2001年)

- ▶A5判・352頁／本体 8,800円(税別) ISBN978-4-7842-7018-7

大航海時代の海域アジアと琉球

中島楽章著

レキオスを求めて

これまで十分に活用されてこなかったヨーロッパの文献、地図などを縦横に用いることで、海域アジアの全体状況、ヨーロッパにおける地理認識の変化、さらに漢籍等の公式的な史料からではとらえきれない古琉球期の琉球王国の活動を多角的に解明する。

- ▶A5判・630頁／本体 9,500円(税別) ISBN978-4-7842-1989-6

室町期東国社会と寺社造営

小森正明著

寺社の造営事業は、寺社を中心とする経済活動—寺社領経済—の発展に大きな効果をもたらした。本書は、鎌倉府体制下にあった室町期の東国社会に、寺社造営事業と寺社領経済が与えた影響を考察する。「香取文書」など中世東国の「売券」の長年にわたる分析に基づく成果。

- ▶A5判・356頁／本体 7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1421-1

徳川社会と日本の近代化

笠谷和比古編

19世紀アジア情勢において日本が欧米列強の植民地化を免れ独立を堅持しえた理由として、列強に互しうるだけの力を蓄えていた徳川日本の文明的力量に着目せざるを得ない。徳川社会はどのような力powerを、いかにして形成しえたのか、多分野の研究者の書き下ろし論文25本により総合的に究明する。

- ▶A5判・730頁／本体 9,800円(税別) ISBN978-4-7842-1800-4

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。